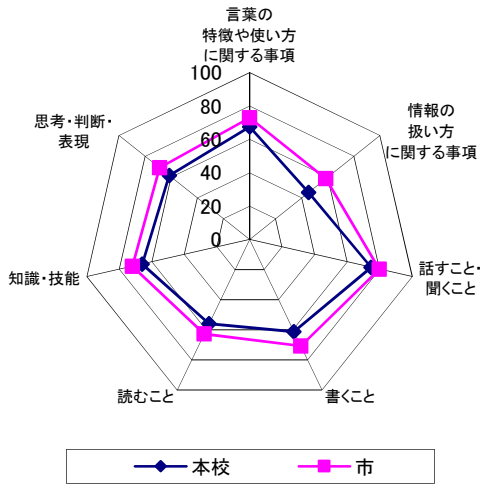


宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.6	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	45.3	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	74.7	79.8	75.9
	書くこと	61.3	70.7	71.7
	読むこと	56.0	62.8	62.5
観点別	知識・技能	66.0	72.0	74.4
	思考・判断・表現	61.5	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

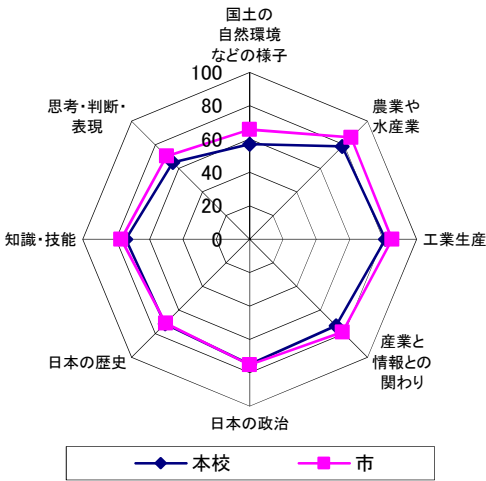
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○全体の平均正答率は、市を5.4ポイント下回っているが、漢字を読む問題の正答率は、4問中3問が、90%以上か、市の平均を上回っていた。 ●5学年配当漢字を書く問題は、市の平均を1.4ポイントから14.8ポイント下回った。 ●同じ読みの漢字の使い分けについての問題の正答率は、市より8ポイント、国より18.5ポイント下回った。	・漢字の読み書きについての学習を、今後も朝の学習等で漢字小テストやプリント等で繰り返し取り組ませ、力を定着させたい。特に漢字を正しく書く力が身に付くよう、重点的に指導していく。 ・6年生の漢字だけでなく、小学校で学習した全ての漢字を正しく書けるよう、定期的に振り返り確認する時間を設ける。 ・漢字の読み書きだけでなく、意味や熟語などの知識の指導も行っていく。
情報の扱い方に関する事項	●情報と情報の関係を正しく理解し、目的に応じて文章を書く問題の正答率は、市や国の平均を13ポイント以上下回った。	・与えられた情報から、指示された条件に合った文章を短くまとめて書く活動を、授業の中で意図的に取り入れることで、書くことに慣れさせながら、書くスキルを身に付けさせる。
話すこと・聞くこと	○話の内容を明確にするための話し手の工夫を捉える問題では、市の平均を1.6ポイント国の平均を10.5ポイント上回った。 ●全体の平均正答率は、市を5.1ポイント、国を1.2ポイント下回った。特に、聞き取った話し合いの内容をもとに、立場を明確にして考えをまとめて記述する問題の平均正答率は市や国より7ポイント程度低かった。	・話の内容を聞き取り、その情報を正しく理解することが出来る力を育てるため、授業や朝の学習の時間に、よく聞き、情報を理解して要点をメモしたり、聞き取ったことをもとに、条件にあった言葉を考えて書いたりするなどの学習を取り入れ指導していく。 ・他教科での学習や日々の生活の中でも、これまで同様に聞くことの指導を継続して行っていく。
書くこと	○表現の効果を適切に考える問題では、市の平均を2ポイント上回った。 ●登場人物の心情について描写をもとにしてとらえる問題では市の平均を12ポイント、対比した文章を捉える問題では市の平均を13ポイント下回った。	・単元の内容に沿った図書資料など、様々な文章を読むことを通して、読解力を向上させていく。 ・対比する事柄、事実の説明、根拠となる理由、筆者の考えなど、文章の内容を的確に捉えられるよう指導していく。
読むこと	○文章を指定された長さで書くことは、市の平均と比較的近い値だった。 ●2段落構成で、賛成の理由や反論を書く問題では、市の平均を9ポイント下回った。 ●資料を読み取り、報告文を書く問題では、市の平均を13ポイント下回った。	・国語以外の他教科でも、自分の考えをまとめたり、意見の根拠となる理由を考え文章に表したりする機会を増やしていく。 ・作文用紙の正しい使い方を確認し、段落を構成しながら文章を書けるよう指導していく。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	57.0	65.7	67.0
	農業や水産業	78.5	86.1	77.5
	工業生産	81.4	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	73.3	78.6	69.6
	日本の政治	75.0	75.2	65.8
	日本の歴史	71.7	71.1	69.1
観点別	知識・技能	74.2	77.0	72.8
	思考・判断・表現	65.0	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

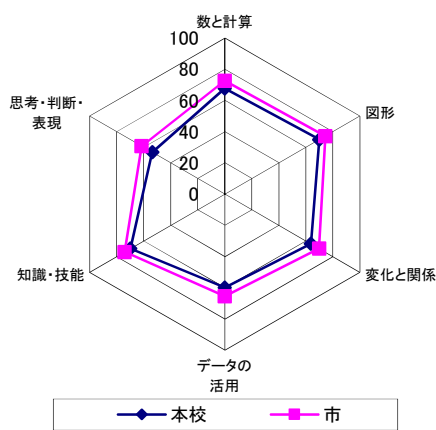
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	●正答率が57.0%と、市の平均を8.7ポイント下回った。 ○日本の周辺の国と領土の端について理解する問題で正答率が市の平均を3.7ポイント上回った。 ●日本の気候の様子に着目して雨温図から都市の位置を考え判断する問題の正答率が、23.3%と低かった。	・復習用のプリントや地図等を準備し、家庭学習等で活用しさらに定着を図る。 ・日本の都市の位置を再確認させるとともに、雨温図等の資料からグラフの特徴を捉えられるように理解を深める。
農業や水産業	●正答率が78.5%で、市の平均を7.6ポイント下回った。 ○食料生産に関する地図を読み取る問題の正答率が86.0%と、市の平均と同程度となった。 ●米づくりの作業の理解をもとに資料を読み取る問題の正答率が65.1%と、市の平均82.6%を17.5ポイント下回った。	・復習用の教材を準備し、学習内容を再確認させるとともに、家庭学習を中心に教材を活用し、定着を図る。 ・資料から読み取れることを整理したり比較させたりすることで、思考力向上を図る。
工業生産	●正答率が81.4%で、市の平均を4ポイント下回った。 ●環境に配慮して生産された自動車について考え、ガソリンカーと比較する問題について、市の平均を7.5ポイント下回った。	・復習用の教材を準備し、学習内容を再確認させるとともに、家庭学習を中心に教材を活用し、定着を図る。 ・資料から読み取れる内容を整理し、対象を比較して考えたり話し合ったりする活動を通して、思考力の向上を図る。
産業と情報との関わり	●正答率が73.3%と、市の平均を5.3ポイント下回った。 ●放送や新聞などに着目して、情報産業の役割や責任の大きさについて捉え判断する問題で、市の平均を7.6ポイント下回った。 ●自然災害から命を守る取り組みについての問題で、市の平均を8.9ポイント下回った。	・復習用の教材を活用し、学習内容を再確認させる。また、各教科との関連を図りつつ、日常における情報産業や情報化社会についての理解を深め、定着を図る。 ・正しい判断のもとで情報を扱うことができるように、日常生活においても適宜指導する。
日本の政治	○正答率が75.0%で、市の平均と同程度となった。 ●日本国憲法における天皇の地位についての理解を問う問題の正答率が58.1%と低かった。 ●国会の働きについての理解を問う問題の正答率が74.4%と、市の平均をやや下回った。	・復習用の教材を活用し、日本国憲法の内容や日本の政治の仕組みについて再確認させ、定着を図る。 ・新聞やテレビのニュースなどの話題を取り上げ、政治に興味を持たせるとともに、家庭学習等において、自主的な調べ学習を奨励し、学習内容の定着を図る。
日本の歴史	○正答率が71.7%で、市の平均と同程度となった。 ●縄文時代から平安時代にかけての出来事の理解を問う問題では、藤原氏の政治についての問題で市の平均を上回ったが、他の問題では市の平均を下回った。 ○鎌倉時代や室町時代の出来事の理解を問う問題について、全ての問題で市の平均を上回った。	・復習用の教材を活用し、歴史の流れや出来事について再確認させ、定着を図る。 ・社会科新聞づくりを通して、資料を活用したり、要点をまとめたりしながら、自分の言葉で表現する力を育てる。 ・家庭学習等において、自主的な調べ学習を奨励し、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	67.8	72.6	71.6
	図形	69.9	74.4	72.0
	変化と関係	63.7	69.8	62.6
	データの活用	59.9	65.5	59.1
観点別	知識・技能	69.9	74.1	68.9
	思考・判断・表現	53.7	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

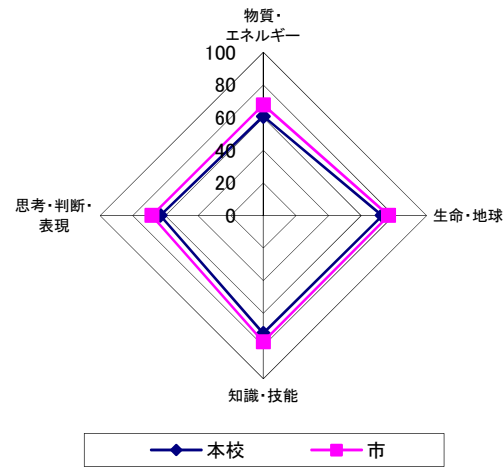
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●正答率が67.8%で、市の平均より4.8ポイント低かった。 ●図を使って小数倍の文章問題から式を選択したり、長さや重さの数量関係を表した線分図を選んだりする問題では、正答率が市の平均より16ポイントとかなり低かった。 ○2つの文字を使って表された式で、yの値からxの値を求める問題では、正答率が市の平均より8ポイント高かった。	・基本的な計算の苦手な分野を確認させ、教科書巻末の「6年間の算数の総まとめ」で補充的学習ができるようにする。復習用教材もプリントして常に用意しておく、それらも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。 ・図を用いて考えたり説明したり考えたりする力をつけるために、各学年の授業で、図や表、式、説明を往還させる指導を行う。
図形	●正答率が69.9%で、市の平均より4.5ポイント低かった。全ての問題で市の平均を下回った。 ●正八角形の作図方法から、円の中心のまわりにはできる角の大きさと、正八角形の1つの内角の大きさを求める問題の正答率が市の平均を10.9%下回った。	・苦手な分野を確認させ、教科書巻末の「6年間の算数の総まとめ」で補充的学習ができるようにする。復習用教材もプリントして常に用意しておく、それらも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。 ・各学年において、図形についての見方を用いて面積や体積、長さを求めることを実感させ、具体物を操作しながら体験的に学ぶ機会を多く取り入れる。そして、図形を識別する感覚的な理解だけではなく、問題を解く筋道を立てる論理的な理解につながるように授業を工夫する。
変化と関係	●正答率が63.7%で、市の平均より6.1ポイント低かった。 ○単位量あたりの速さの問題では、正答率90.7%と市の平均より6ポイント高かった。 ●単位量あたりの速さの問題で、速さの違う二人が同時にゴールするには走る距離をどう変えたらいいかを判断する記述式の問題の正答率は、32.7%と低かった。	・苦手な分野を確認させ、教科書巻末の「6年間の算数の総まとめ」で補充的学習ができるようにする。また、復習用プリントも活用し、個に応じた指導を継続する。 ・変化の関係の問題では、各学年の学習時に、式と言葉で理由を説明する問題を取り入れ、自分で考えるスキルの向上を図っていく必要がある。
データの活用	●正答率が59.9%で、市の平均よりも5.6ポイント低かった。 ○度数分布表についての理解の問題では、正答率が89.5%と市の平均よりも2.9ポイント高かった。 ●いろいろなグラフの読み取りで選んだ回答の理由を記述する問題の正答率は、市の平均も33.7%と低い、市の平均より7ポイント低かった。	・苦手な分野を確認させ、教科書巻末の「6年間の算数の総まとめ」で補充的学習ができるようにする。また、復習用プリントも活用し、個に応じた指導を継続する。 ・各学年のグラフの学習時に、グラフから読み取れることは何かだけでなく、そのグラフを見て考えられることを言葉で記述できるようなスキルの向上を図っていく必要がある。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	60.7	67.8	64.1
	生命・地球	72.8	76.7	78.3
観点別	知識・技能	72.2	77.4	78.3
	思考・判断・表現	63.1	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●正答率が60.7%で市の平均より7.1ポイント低かった。 ●全ての問題で正答率が市の正答率を下回っていた。	・苦手な分野を確認させ、確実に学習内容が身に付くよう徹底した指導をしていく。 ・プリント学習などを通して、基本的な学習内容について理解の定着を図っていく。
生命・地球	●正答率が72.8%で市の平均より3.9ポイント低かった。 ○植物のつくりと働きの中で「蒸散についての問題」「光合成の問題(それによる酸素と二酸化炭素の割合の変化)」は、正答率が市の平均を上回った。 ●上記の2問以外は正答率が市の平均を下回っていた。特に「春ごろの日本付近の天気の変り方」は22.2ポイント、実験の構想を練る発展的な問題は9ポイント低い。	・習得させるべき知識を明らかにし、学習内容の定着を図る。板書を目で追ってノートに書き写すことが苦手な児童が多いので、プリントを利用したり、実験などの具体的操作や視覚的な教材等を活用したりする。 ・児童の興味・関心を引き出し、目的を明らかにして実験に取り組めるようにする。因果関係の理解(考察・まとめ)では、多様な意見を尊重しながら結論を導く。 ・日常的に理科に関するニュースや番組を紹介して興味を広げる。また、一つの事象から多くの事象に関係が広がっていくことを教師側が意識して取り上げる。

宇都宮市立御幸が原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びを追求する授業づくりの推進	○課題意識が高まる教材や問題との出会いの工夫(導入の工夫) ○活動内容に応じて、ペアやグループなど学習形態を工夫し、協働して課題に取り組む態度の育成(話し合い活動の重視) ○議論を高め、言語活動を充実させる指導の工夫(コーディネートの力の向上) ○学習の終末に自分の考えが深まったり変容したりしたことに気付けるよう「書く活動」の設定(振り返り活動の充実)	・授業の取組みでは、学校全体で「先生や友達の話を最後まできちんと聞いている」の肯定的回答が約94%、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」では約80%であった。
個に応じた指導と、学習内用の定着を図る指導の充実	○教科の特質や児童の状況に配慮した習熟度別学習や少人数学習、TT等の効果的な実施 ○火・水(朝会等がないとき)・金曜日の朝の学習の時間には、担任外の教員も各学年で個別指導を行い、国語・算数の学力向上を図る。	・特に、思考力・判断力・表現力等を問う問題については、課題が見られる。資料や情報に基づいて自分の考えを明確に記述したり、筋道を立てて表現したりするなどの記述式問題の平均正答率が低かった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

○市の調査から、各教科で市の平均を下回る傾向にあり、特に深い思考を伴う設問や記述問題に課題がある。そこで、言語活動の充実を通して学力の向上を図る。

- ・コロナ禍のため学習活動が制限されたが、今年度の研究教科である道徳を中心に、話し合いを深めるための手立てを工夫してきた結果、話し合い活動における児童の肯定的な回答の割合は約80%であった。全般的に定着度を向上させるためには、話し合いの質を高める必要がある。ペアやグループ・全体での話し合いの中で、自分の考えを友達の考えと比べたり、つなげたりしながら、高めたり、広げたりしていけるように授業展開を工夫していく。
- ・問題に対して自分が理解したことを表現できるように、「書く」活動の充実を図る。教科・領域において、話し合いをした上で「書く」活動を重視し、意図的に設定していく。
- ・授業を通して、「何が分かるようになったのか」「どんな変容があったのか」「もっと考えたいこと」などについて自覚させるために、振り返り活動を充実させる。振り返りの習慣化を図る工夫、次時の授業への期待を高めることや家庭学習などへもつなげていきたい。